

J A丹波ささやま「児童クラブ」の取組み ～子どもたちの放課後を見守って～

調査研究部 福田 いずみ

はじめに

かつて大家族が多く、地域関係が密であった時代の子どもたちは、放課後の時間を家庭や地域の中で自由に遊んで過ごしていたが、核家族化や共働きの増加に加え（図表1）、地域での安心・安全が薄くなっている現在、子どもたちの放課後の生活を守る「学童保育」が、小学校区ごとにあるいはその周辺に必要とされている。

（図表2）でも明らかのように、学童保育は増え続けているが、まだまだ十分ではない。

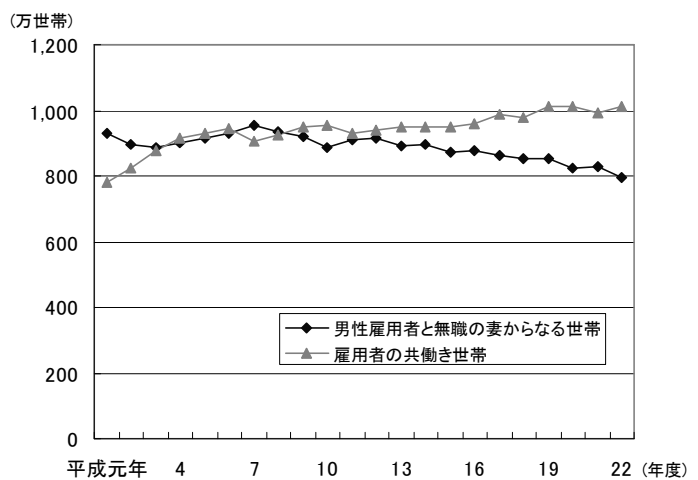
全国学童保育連絡協議会の調査¹では、2010年度に保育園を卒園した新入学児のうち、学童保育に入所できたのは6割と学童保育の不足を指摘している。

就労家庭の間では、保育所の支援を受けて仕事と子育てを両立できても、小学校就学時に必要な支援が受けられず、就労継続できなくなる状況を「小一の壁」という言葉で言い表している。

学童保育は、児童福祉法6条の2第2項で国の制度として位置づけられ、放課後児童健全育成事業として保護者が日中不在の家庭の小学生（おおむね10歳未満）を対象に放課後や学校休業日の健全な遊びや、生活の場を提供することを目的として実施されている。

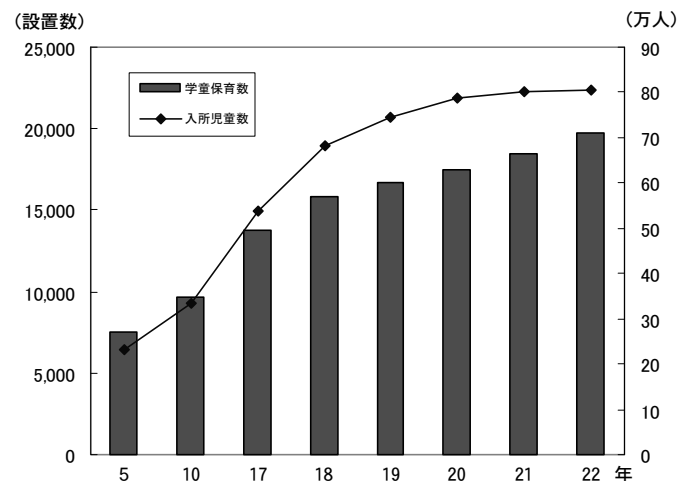
一般に「学童保育」という名称で知られているが国の正式な制度名は、「放課後学童クラブ」である。

（図表1）共働きと片働き世帯数の推移



内閣府『男女共同参画白書 平成23年版』より作成

（図表2）学童保育数と入所児童数の推移



『学童保育情報2010-2011』より作成

1 『学童保育情報2010-2011』 P 30

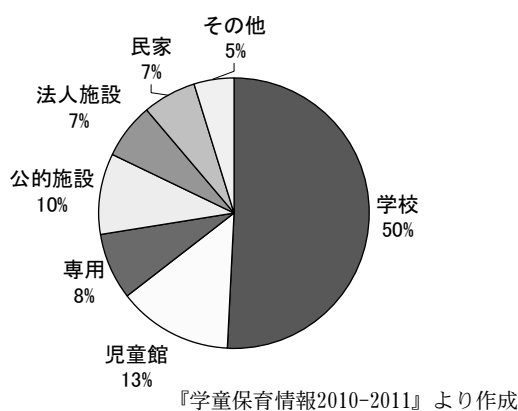
学童保育には、様々な形のものがあり、設置場所も、学校の敷地内や児童館、その他公共の施設内や民間の建物内などである(図表3)。

J Aにおいても地域のニーズに応え、場所貸しや運営にかかわっている。

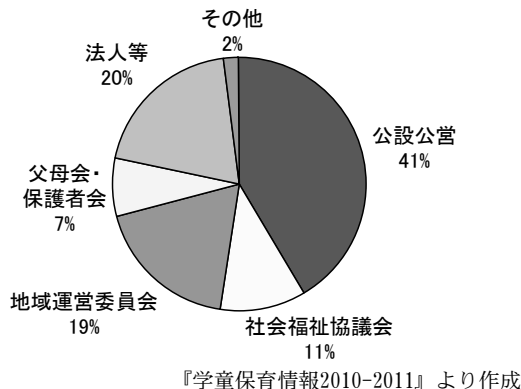
運営の多くは、市町村が直営するものであるが、近年は社会福祉法人や、株式会社が運営するものも増えてきている(図表4)。

次世代育成支援に力を入れる国は、現在検討中の「子ども・子育て新システム」において、保育所を卒所した子どもたちが次に必要とする学童保育を、質・量ともに拡充していくべき施策として位置づけている。

(図表3) 学童保育の実施場所



(図表4) 学童保育の運営主体



本稿では、このような現状に鑑み、遊休施設となっていたJ Aの旧店舗を改装して学童保育を運営し、J Aグループの中でも先駆的に児童の放課後対策に取り組んでいる、J A丹波ささやまの児童クラブについて紹介したい。

事例紹介・J A丹波ささやま児童クラブ

1. J Aの概要

J A丹波ささやまの概要

設 立	平成14年10月
本 店 所 在 地	兵庫県篠山市大沢438-1
組 合 員 数	10,931人
役 員 数	20人
職 員 数	297人
出 資 金	23億円
総 資 産	1,254億円

『平成22年度ディスクロージャー誌』より抜粋



2. 設置状況

J A丹波ささやま児童クラブ一覧

児童クラブ名	設置場所	開設時期
篠山東児童クラブ	旧・日置支店跡地	平成19年7月
西紀児童クラブ	旧・北河内支店跡地	平成19年7月
今田児童クラブ	旧・今田支店跡地	平成20年4月

J A丹波ささやまでは、篠山市からの要請で行政受託による「学童保育事業」をJ Aの事業のひとつとして位置付け、地域貢献として若年層の就労支援と地域児童の健全育成を目指し、公設民営の学童保育（篠山市では「児童クラブ」という）を3か所運営している。

平成19年7月、当時遊休施設となっていた旧支店の店舗を改装し「篠山東児童クラブ」と「西紀児童クラブ」を新規に立ち上げた。

平成20年に運営を開始した「今田児童クラブ」は以前、篠山市が運営していた児童クラブである。

当時、入所児童の増加で手狭になったなどの理由で、篠山市では今田児童クラブの移転を検討していたが、新しい運営場所の確保が難しかったことから、J Aが運営を引き継ぐこととなった。

3. 運営方式

3か所とも完全な公設民営（市がJ Aの建物を借りて設置し、運営をJ Aに委託している）の方式をとっている。

利用申込の受付と利用料の徴収は篠山市がおこない、利用児童数などに応じて市からJ Aに利用料が渡されるシステムである。

運営費は、篠山市の予算の中で市とJ Aと

で決めている。特別に必要な経費が発生した場合には補填されることもあり、逆に予算が余った場合は市に返上することになっている。別途、市からJ Aに賃借料が支払われており、主に固定資産税や修繕費に充てられている。

4. 運営体制

J Aの運営している3つの学童保育の定員は、平均24名。教諭もしくは保育士の有資格者である指導員はそれぞれ2～3名ずつ配置されている。その他に補助員も配置されている。

開設時間は、学校開業日は授業終了後から午後6時まで、土曜・長期休暇期間は午前8時から午後6時までである。

このような体制は、学童保育の一般的な事業内容と比較して標準的といえる。

5. 指導員の状況

全国的に人件費の削減が進み、指導員の身分が不安定になる傾向が強い中で（7割近くが非正規雇用²⁾）、J A丹波ささやまでは、正規雇用の指導員が継続して勤務している。

一般に学童保育の指導員は、「こどもを安全に遊ばせる役割」と単純に考えられがちであるが、この時期の子どもたちは、まだ自立の途上にあり、生活習慣面、情緒面、子供同士の人間関係などの面で大人の支援を必要とすることは少なくない。

このように、指導員に求められる資質は多面的であり、経験を積んだ指導員が継続して勤務していることは、学童保育の質の維持向

2 『学童保育情報2010-2011』 P 38

上に極めて重要である。そのことから、J A丹波ささやまの児童クラブの運営は、安定した状況にあるといえる。

6. 施設環境（篠山東児童クラブ）

J Aが運営する3つの児童クラブの中から、篠山東児童クラブについて紹介したい。

篠山東児童クラブは、5つの小学校から児童が通ってくるため、遠い小学校へは車での送迎をおこなっている。

1年生、2年生の利用が一番多いが、6年生までの児童が利用できる。

設置場所の旧日置支店は、昭和の洋館のたゞまいをもつ古い建物で、店舗だった部分を改装し、広いホールとして利用しており、職員の事務スペースはその一角にある。

金融店舗の名残で金庫はそのままになっているが、前に本棚などを置いてふさいでいる。

ホールの裏側には、和室や簡単な調理のできる設備もあり、それらは児童クラブの活動の中で活用されている。またJ Aで不用となった机やロッカーなどもここに持ち込まれ、有効活用されている。

すぐ向かいにある城東小学校との連携で、校庭や夏休み中のプールの利用も可能なため、子どもが活動するための室内・外の環境が整っている。

7. 子どもたちの生活

学校のある日、土曜日や夏休みなどで学校が休業の日、それぞれについて遊び、学習（宿題）掃除など、生活スケジュールやルールが決められている。

自由に過ごす時間が多いが、指導員が企画した活動をおこなうこともある。



篠山東児童クラブ（旧・日置支店）



児童クラブ・ホール



児童クラブ・ロッカー

指導員は、他の児童クラブの活動も参考に
して、相談し合いながら活動内容を組み立て
ている。

J Aらしい活動として「バケツ稲」や「野
菜作り」などをおこない、育てたお米を収穫
し、おにぎりを作って食べるといった食農教
育を実施したこともある。

また、夏休み中は、一日を児童クラブで過
ごすことから、公共の施設に出かけるなど、
子どもたちが楽しめる活動がいろいろと工夫
されている。こういった運営内容は、普段は
指導員に任されているが、予算が絡む問題や
困りごとがあるときは、J Aの担当者が相談
に乗り手助けをしている。



8. 篠山市の児童クラブの設置状況

篠山市の放課後児童健全育成事業は、学童
保育を「児童クラブ」という名称で展開して
いる。

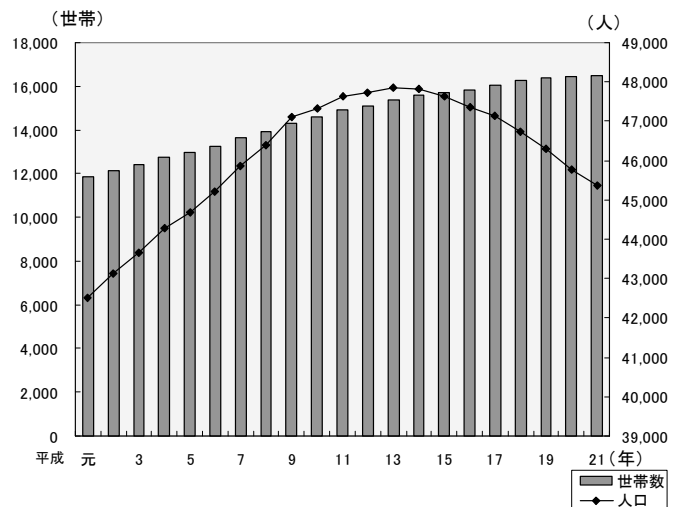
篠山市では、17か所の小学校に対して、7
か所の児童クラブを展開しており、そのうち
3か所が、公設民営の児童クラブとしてJ A
丹波ささやまに運営委託している。

篠山市教育委員会こども未来課によると、
農業が主な産業であるこの地域では、J Aに
対する信頼が厚く、公の事業との認識が強か
った児童クラブの運営を、J Aがおこなうこ
とに住民たちも抵抗はなかったという。

近年、篠山市の人口は減少傾向にある一方
で、世帯数は増えており、単身や核家族世帯
の数が増加の傾向にある（図表5）。

この地域でも、核家族化や共働きの増加な
どその理由から、児童クラブの需要は年々高
まっており、既に定員をオーバーしそうな児
童クラブもある。

（図表5）篠山市の人口と世帯数の推移



兵庫県庁資料より作成

小学校の数に対する児童クラブの設置状況は十分とはいえないが、JAの協力がなければ、もっと不足していたことが予想され、JAの児童クラブの運営は、大きな地域貢献になっている。

多くの自治体にとって、公設公営の児童クラブを増設することは財政的に厳しい状況にあるが、篠山市ではJAの児童クラブの運営開始以来、その必要性を強く感じたNPO法人による児童クラブも立ち上がり、行政だけでなく「地域の子どもを地域で育てる」という動きがみられるようになってきている。

終わりに

学童保育の問題は、就労人口の多い都市部のことと捉えられがちであるが、農村部でも過疎化や少子化などで子どもをとりまく環境は変化しており、都市部、農村部に関係なく、子どもが放課後の時間を安全に過ごせる場所の必要性が高まっている。

学童保育の事情に詳しい全国学童保育連絡協議会の真田氏は、学童保育の需要の高まりは都市部ばかりでなく、むしろ農村部のほうが顕著であると指摘する。

真田氏によると、2004年11月に起きた奈良県女子誘拐殺人事件以来、全国的に子どもの放課後の生活に対する不安が高まっているという。特に農村部では、三世帯同居の場合でも高齢者が子どもを安全に見守ることが難しいことや、近隣に友達がいないため、遠方まで出掛けて行かないと子ども同士で遊ぶこと

ができないなどの理由で、学童保育に入所を希望する家庭が増えているという。

全国的な調査³によれば、放課後、友達と遊ばない子どもが増えており、集団遊びの不足が、コミュニケーション能力をはじめとした子どもたちの社会性の育ちに与える影響が危惧されている。このような視点から考えると、学童保育は、本来の親の就労継続を支援する意味とともに、子どもたちが仲間同士で集い、遊ぶ環境を保障する場としての役割も含んでいるのではないだろうか。

このように、地域の中に求められている学童保育であるが、JA丹波ささやまの取り組みの中でも少し触れたように、開設場所の確保という課題を抱えている。

学童保育の開設場所は、広さの確保とともに、利用者たちの通う小学校との位置関係が極めて重要である。運営団体は、小学校近くの限られた物件の中から探さなければならず、通所児童が安全に通える運営場所を確保することに苦労することが多い。

筆者がインターネットや全国学童保育連絡協議会の協力を得て調査した結果、JAの統廃合などで遊休施設となった「旧店舗」や「ふれあいセンター」を学童保育の運営団体に貸し出しているJAが全国各地に存在していた⁴。

それらのJAは、本稿で紹介したJA丹波ささやまのように、学童保育の運営をおこなっているわけではなく、場所貸しだけをおこなっているようであるが、運営場所の確保が困難な実態を考えると、JAの施設を学童保

3 『教育アンケート調査年鑑2004年版・下』（創育社）

4 筆者（インターネット検索）と全国学童保育連絡協議会（※設置場所の調査）で抽出した結果、岩手県、福島県、群馬県、千葉県、静岡県、石川県、兵庫県、和歌山県、奈良県、愛媛県、徳島県、山口県、福岡県、宮崎県で確認された。※JAに特化した調査ではない。

育のために貸し出す行為そのものが、立派な地域貢献につながっていると筆者は考える。

全国的に学童保育はまだ不足しており今後、設置場所の貸し出しあるいは運営にJAが協力を求められるケースは少なくないだろう。

今回紹介したJA丹波ささやまの「児童クラブ」の取り組みのように、JAが子育て中の親の就業支援や、地域の子どもの育ちを見守っていくことに積極的にかかわっていくことで、JAが今までアプローチできなかった人たちとの新たなつながりを生み、これからのJAの存在価値を高めることへとつながっていくことを期待したい。

参考文献

- ・日本女子大学附属家庭福祉センター編『学童保育の福祉問題』勁草書房, 1993
- ・『平成22年度ディスクロージャー誌』丹波ささやま農業協同組合
- ・『学童保育情報2010-2011』全国学童保育連絡協議会
- ・池本美香『子どもの放課後を考える』勁草書房, 2009
- ・編集代表 大日向雅美編集代表『地域の子育て環境づくり』ぎょうせい, 2008
- ・森田明美編著『よくわかる女性と福祉』ミネルヴァ書房, 2011
- ・明石要一『データで語る平成の子ども気質』明治図書, 2004
- ・及川房子『学童保育実践の記 子どもたちと作った放課後』川島書店, 2002
- ・北川太一『いまJAの存在価値を考える「農協批判」を問う』家の光協会, 2010
- ・篠山市 篠山市次世代育成支援対策推進後期行動計画 平成22年3月『元気なささっ子愛プラン』